

京都大学訪問の感想

12年 佐用万莉奈

私は7月27日に京都大学を訪問した。理由は、父が招待されたためである。

まず、私は東アジア人文情報学研究センターを見学した。そこでは、中国研究のためなどに沢山の蔵書があり、一つ一つがとても貴重なものであった。徹底された管理のもと、日々の研究が進められていることを感じた。

次に、湯川記念館を見学した。1949年に湯川秀樹教授がノーベル物理学賞を受賞したのを記念して建てられたものだ。入口には、湯川教授の胸像があり、また、湯川教授の研究室を再現した部屋などがあった。その部屋の中には、研究のために使われた本が本棚の中にびっしりと並んでいて、たくさんの努力をしてノーベル賞を受賞したのだと思った。実際に湯川教授が使っていた椅子に座ることができ、とても貴重な体験ができた。

その後、京都大学の山極総長の講演を聞いた。「グローバルリーダーの条件をゴリラから学ぶ」というタイトルで、ゴリラ社会のリーダーの姿から、今、人間社会に求められるグローバルリーダー像についての講演だった。人間とゴリラのリーダーに共通していることは、愛嬌がある、運が良さそう、背中で語るということだった。

最後に懇談会が開かれた。そこで私は京都大学iPS細胞研究所所長で、2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸也教授と写真を撮ることができた。懇談会には15分ほどしかいられないということで、あまりお話をすることはできなかったが、それだけ多忙な方なのだと思った。また、山極総長とも写真をとることができ、少しお話しさすることができた。

今回の訪問で、私は今までになく貴重な体験をすることができた。また、何を学ぶにあたっても努力がとても大切であることを感じた。今回のことを行後の学習に活かせて行けたら良い。

